

令和8年度 第2回 浅間小学校学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和8年7月24日(金) 午後1時30分から午後3時40分まで
- 2 開催場所 浅間小学校 北校舎2階 第2会議室
- 3 出席委員 鈴木 秀志、高橋 与人、市原美智恵、鈴木 明子、岡本 弥佐、川合 正二
- 4 欠席委員 伊藤 元之、岩崎 香織、河合 文恵
- 5 オブザーバー なし
- 6 学校支援コーディネーター 鈴木 由紀、佐藤 穂
- 7 学 校 鈴木 啓二(校長)、高木 康泰(教頭)、宮崎 由季(教務主任、CS担当職員)、栗田 加奈(CSディレクター)、田中 滋子、佐野 和道、島津 貴仁、大石 正寿、河野 里美、鈴木 耕太、河村由美子、森 拓真、村松麻衣子、小澤 恵介、谷川 悠、松居 賢哉、中嶋 佑介、神原 沙希、大庭 利恵、高野 航希、永瀆 杏華、杉山 早苗、安藤 鮎美、丸山 栞和、武田あかね
- 8 教育委員会 なし
- 9 傍聴者 なし
- 10 会議録作成者 CSディレクター 栗田 加奈
- 11 議長の選出

前回の学校運営協議会において、今回の議長について岡本委員を推挙する旨の発言があったことから、岡本弥佐委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

12 協議事項

(1) 主体性を育む活動について

13 会議記録

司会の教頭から、委員総数9人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

熟議Ⅰでは、「子供たちに『主体性を育む』ための活動」について、それぞれの学年が1学期に取り組んだことを各学年の代表が紹介した。

その後、本校職員と学校運営協議会委員が6つのグループに分かれてグループワークを行い、会場責任者が話し合ったことを報告した。

- ・子供たちが授業に関心を持ち、やりたいという意欲を持って取り組めるように教師が工夫していく必要がある。また、子供たちの頑張りを見逃さず、褒め、認め、それを全体に広めていくようにしたい。(1グループ)
- ・子供たちが主体的に動きたくるような仕掛け作りを心掛けていきたい。その中で、子供たちが自分で考えて自分でやるようにするために、自分で決める経験をさせるとともに、小さな失敗を乗り越えていけるようにもしていく必要がある。(2グループ)
- ・子供たちが成功体験を積んで頑張ったよかったと思えるように、子供たちの実態に合わせて教師がどんどん手を入れていくことが大切になる。基本的な生活指導や基礎学力など子供たちの土台となる力をつけていきたい。(3グループ)
- ・子供たちの困り感が見えにくくなっている今、それらをよりキャッチできるようにしてい

たい。学校だけでなく、地域と一体となって子供たちを育てていくこと、学校と地域の連携が大切なのだと改めて感じる。(4グループ)

- ・個別最適な学びにおいて、自分で学び方を選択する力をきちんと身に付けさせていく必要があると思う。低学年のうちから取り組んでいくことがが中学年、高学年の学習につながっていく。(5グループ)
- ・学校という失敗ができる環境、失敗から学べる環境の中で、子供たちにどのように自己実現させていくのが重要になる。自分がどのように変わったのか、どう高まったのかといった変化や深まりに気付かせられるようにしたい。(6グループ)

各グループの報告を聞いた会長からは、学年交流や自己決定する場を設定することが大切であることや、学校運営協議会委員と学校職員が一堂に会して話し合う意義などについて発言があった。

熟議Ⅱでは、議長の指示により、主体性を育む活動を更に充実させるにはどうしたらよいか話し合いが行われ、委員からは以下の意見が出された。

- ・なかよし学級での取組がすばらしく、それぞれの実態に合わせてワークシートを用意していた。これからも、このように個に応じた指導を積み重ねて行ってほしい。(鈴木秀志委員)
- ・つばめ応援団(ボランティア)に参加する地域の皆さんも、子供たちのいいところを見つけたら躊躇しないで温かい言葉を掛けてあげてほしい。それが子供たちのきっかけにもなる。(市原委員)
- ・改めてつばめ応援団(ボランティア)の重要性を感じた。浅間小のすばらしい取り組みであると思うので、ぜひ継続させ、子供たちの活動に役立ててほしい。(高橋委員)

その他連絡事項

- ・学校支援活動についての報告

学校支援コーディネーターより、1学期の活動実績について資料により活動報告がなされた。

- ・次回開催について

教頭から次回の学校運営協議会の日程について連絡があった。

次回議長選出について岩崎委員を推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。